

～キルギス～ ～キルギス～

<基本情報>

国 名 : キルギス共和国

首 都 : ビシュケク

公 用 語 : キルギス語、ロシア語

面 積 : 198,500 km²

宗 教 : イスラム教スンニ派が多数。他、キリスト教、ロシア正教など。

人 口 : 560 万人 (2010 年)

民 族 構 成 : キルギス人が 6 割以上。カザフ人、ロシア人、ウズベク人、ウクライナ人、タタール人、ウイグル人、タジク人、ドゥンガン人など人種のるつぼ。

気 候 : 大陸性気候。夏は暑く、冬は寒い。また地域差もかなり大きい。

通 貨 : ソム

国際電話番号 : 996

キルギスの魅力は壮大な自然です。高い山々に囲まれた高原や湖、渓谷などが訪れる人々を魅了します。山々や森を吹き抜ける風は爽やかで、異国とは思えないほど人懐こい現地の人々があなたを出迎えてくれることでしょう。旅行シーズンは 5～10 月が適しています。

キルギス人は世界で最も古い民族のひとつとされています。紀元前 201 年の中国の文献には、南シベリアと中央アジアに居住している民族について書かれており、これがキルギス人に関する最古の記述であると考えられています。



ジェティ・オグズ渓谷

<ビシュケク BISHKEK>

人口 63 万人を抱えるキルギスの首都。天山山脈の支脈キルギス・アラ・トー山脈とカザフスタン国境を流れるチュイ川に囲まれた海拔 800mの平地に位置しています。アルマトイとタシケントの間にある交通の要所で、アルマトイまで車で約 5km という近さです。キルギス・アラ・トー山脈から流れる川を利用した緑の多い町並みは美しく、町全体が公園のようです。町は旧ソビエト連邦の都市計画のもとに造られ、碁盤の目のように整然としています。ソ連時代は「フルンゼ」と呼ばれていました。

ビシュケクの町にはキルギス人、カザフ人、ロシア人などの多くの民族が暮らしています。キルギス人の顔は日本人に非常に似ていて、慣れるまでは見分けがつかないほどです。町としての歴史は新しいので歴史的遺跡はありませんが、4,000~5,000m 級の山並みを眺めたり、山の懐に分け入ったり、自然を堪能してみましょ。時間の流れはゆったりとしています。

○キルギス国立歴史博物館 HISTORY MUSEUM

10:00-17:00 月曜日休み

ADDRESS:ALA-TOO SQUARE

アラト広場の前にある大きな建物。昔のキルギスに住んでいたソグド人の遺跡からの出土品、工芸品、生活用具などが展示されています。また、遊牧民の移動式テント「ユルタ」や鷹狩りの様子なども展示されています。



○フルンゼ邸博物館 FRUNZE MUSEUM

09:00-16:00 月・火曜日休み ADDRESS:FEUNZE STR,364

ロシア革命からソ連時代初期にかけて軍事的指導者として活躍したミハイル・ワシーリエビッチ・フルンゼ（1885~1925）の生家。ビシュケク出身のフルンゼは青年時代から革命運動に傾倒し、革命とそれに続く内戦で軍事的才能を活かし、各地で赤軍を勝利に導いたのです。ただ、民主主義者の間では、当時生まれつつあったコーカンドの民族政権を倒し、ブハラを破壊した張本人として悪名高い人物です。



○マナス王像 MANAS STATUE

フィルハーモニー・コンサートホールの前庭に、剣を持って馬に乗り竜を操るマナス王の像が立っています。マナス王は 1,000 年以上も昔から語り継がれてきた叙事詩「マナス」の英雄で、この像はキルギス国民のシンボルとなっています。周囲には実在したマナスの語り手たちの胸像が並んでいます。





○オシュ・バザール OSH BAZAAR

ビシュケク最大のバザールで、東半分は肉、野菜、果物などの食品、西半分は衣類と雑貨が中心となっています。市内から西へ 3km。トロリーバスまたはバスで。

<周辺のみどころ>

○アラ・アルチャ自然公園 ALA-ARCHA

ビシュケクの市街から南へ約 40km 行ったキルギス・アラ・トー山脈の中にある渓谷を中心とした自然公園。川沿いの道を進みながら目前にそびえる山脈と荒々しい渓谷の美しさを楽しめる山好きな人にはお勧めのスポットです。道が比較的整備されているため、スニーカー、ウォーキングシューズで十分です。公園の入り口は標高 1,300m あり、夜間は夏場でも冷え込むので、ジャンパーやカーディガンが必要です。

「アラ・アルチャ」とは白黒まだらの杜松の意味です。



○トクマク TOKMAK

ビシュケクから東へ 60 km。チュルク系諸民族特有の石人・バルバルが何体か残っています。これは北ユーラシア（特にキルギスからモンゴルにかけて）に見られる遊牧民族が残した人型の石像。突厥時代のものの多くは左手で帯剣に手をかけ、左手に酒杯を持っているものが有り、東を向いた石像の前には 10~30 個の石が並べられています。多くは墓の近くに立てられており、中国の史書には死者を埋葬する際

にその故人が生前に倒した敵を石人にして、墓に守護する役目を与えていると記されていますが、単に先祖を守護するためとの説もあります。

○ブラナの塔とバラサグン遺跡 BURANRA TOWER & BALASAGUN

トクマクから南へ約 10 km。11 世紀にチュルク系遊牧国家カラ・ハーン朝の都がここに置かれ、バラサグンと呼ばれていました。現代ある遺跡はこの時代のもので、しかし、再建されたこの町もモンゴルにより再び滅ぼされ、現在は 200m 四方の敷地に当時の建物がわずかながら残っています。「ブラナ」とは、ミナレットがチュルク風に「ムナラ」と訛り、さらにそれがロシア風に訛ったものです。11 世紀のブラナの塔は当時 45m の高さを誇っていましたが、現在は 24m となっています。

塔の中の階段を上り、周囲の景色を眺めるのも楽しいでしょう。塔のそばにある八角形の石組みは、カラ・ハーン朝の霊廟の土台部分で、他には紀元前 2~3 世紀に作られた動物の石像や 6~12 世紀の石人などが並んでいます。



○アク・ベシム遺跡 AK-BESHIM

ブラナの塔から北西へ約 6km にある 6～12 世紀ごろの古代都市遺跡。6～7 世紀に栄えた西突厥のふたつの首都のうちのひとつスイヤブ（碎葉）がこの地にあったことが近年明らかになっています。7 世紀にあの三蔵法師がインドへ向かう途中この地に立ち寄り、もう一つの首都（場所は特定されていません）で西突厥の王と会い、歓待を受けたと『大唐西域記』に記されています。

○イシク・クル湖 ISSYK-KUL

ビシュケクの東約 190km。真っ白な万年雪とふたつの山脈に囲まれた大きな湖で、その大きさは東西 180km、幅 30～70km と、琵琶湖の約 9 倍もあります。キルギス地方の言葉でイシク・クルとは“熱い湖”の意で、日本ではイシク湖とも呼ばれています。水質はわずかに塩分を含んでいます。



かつて三蔵法師もこの湖岸の道を通りインドへ向かったと伝えられています。ソ連時代のイシク・クル湖は外国人立ち入り禁止の場所となっており、当時はまさに“幻の湖”でした。

○ Cholpon-Ata CHOLPON-ATA

ビシュケクから約 260km のところにあるイシク・クル湖岸最大の避暑地。政府要人の別荘やサナトリウム、保養所などが建ち並んでいます。夏季は中央アジア各地から訪れる湖水泳客でにぎわっています。



○岩絵野外博物館 PETROGLYPHS OF CHOLPON-ATA

Cholpon-Ata の北西の山の斜面にある、柵で囲まれた野外博物館。大小さまざまな岩がごろごろと転がっており、その中には山ヤギ、馬、羊、狩りをする人などの絵が刻まれた岩があります。この岩絵は紀元前 5 世紀ごろの遊牧騎馬民族サカ人によるものと考えられています。

○カラコル KARAKOL

ビシュケクから約 380km、イシク・クル湖の東端に位置する交通の要所。天山山脈への登山基地としても知られています。

1860 年代にロシア人によって町が築かれ、1880 年代にドゥンガン人（中国系イスラム教徒）が移り住みました。ロシア正教会（聖三位一体教会）や中国式の木造モスクなどからもその歴史的背景を感じられることでしょう。

